

設立趣意書（案）

スポーツと大学は、ともに、学生を大きく成長させ、社会で活躍する人材を育成する力、共生社会や健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる力、さらには、世界と繋がる力を持っている。

そして、学生や指導者、研究者、スポーツ施設等のスポーツ資源を持つ大学はスポーツの多面的な価値を発揮できる絶好の場所である。

スポーツと大学が有機的に連携することにより、スポーツが持つ価値や魅力を最大限発揮し、社会の共通課題の解決や発展により一層大きな役割を果たすことができる。

一方、平成 29 年 3 月に文部科学省が策定した「大学スポーツの振興に関する検討会議」の最終とりまとめにおいて指摘されているように、大学スポーツは、運動部活動の安全性の確保、学生アスリートの学業環境や就職への支援、運動部活動の運営の透明性及びスポーツ医科学等に係る研究者間や分野横断的な連携の不足等様々な課題を抱えている。

また、同年 9 月にスポーツ庁が設置した「日本版 NCAA 創設に係る学産官連携協議会」においては、大学スポーツが多面的な価値を発揮していくに当たって、大学スポーツの基盤の確立として、まずは、安全・安心の分野について事故の予防措置の充実や事件・事故等の関係者の情報共有の仕組みの構築が、学業充実の分野について社会で活躍できる学生アスリートを育成するための一定の学業基準の担保やキャリア形成支援等の取組が必要との議論がなされた。

安全性の不平等はあってはならない。

いずれの学生にも、競技の安全性が平等に保障されなければならない。

スポーツと学業の両立も同様である。

いずれの学生にも、スポーツと学業の両立を達成するために不断の努力をすることができる環境が整えられるべきである。

さらに、大学スポーツの持続的な発展のためには、大学運動部を始めとした学生スポーツ団体が組織のガバナンスを確立し、自らの活動について社会に対する説明責任を果たすとともに、インテグリティやスポーツマンシップを大学スポーツ全体に浸透させていくことも必要である。

言うまでもなく、大学スポーツの主体は大学であり、主役は大学生である。また、大学及び大学生と共に大学スポーツを作り上げてきたのは、各競技団体及び各学生競技団体である。

今後は、大学自らが、スポーツに体系的、総合的に取り組むための担当部署、担当責任者を置いて取組のネットワークの充実強化に取り組むと共に、大学、学生、各競技団体及び各学生競技団体が、その枠を超えて、大学スポーツをさらに発展させるために一致団結することが重要である。

政府も日本版 NCAA（仮称）の平成 30 年度中創設を推進している今こそ、これまで大学スポーツ関係者が一丸となって積み上げてきた議論を土台として、大学スポーツが抱える課題を共同で解決し、大学スポーツをより高い水準に引き上げるとともに、社会の課題解決・発展に貢献することを目指し、その礎となる大学・競技の垣根を超えた組織を創設する時である。

日本版 NCAA（仮称）創設の最大の利点は大学横断的・競技横断的なプラットフォームの提供である。

各大学、各学生、各競技団体、各学生競技団体が単独では解決できない課題であっても、英知を結集し、確固たる決意で事に当たれば、いかなる課題も解決できる。

大学スポーツの大学横断的・競技横断的組織は、次の理念の実現を目指す。

- （1）各種ガイドラインをはじめとした予防措置の充実や事件・事故等の関係者の情報共有の仕組みの構築、医科学分野との連携を通じて大学スポーツを、より安全なスポーツとする。
- （2）キャリア形成支援等を通じて、大学スポーツから社会に貢献できる人材を輩出する。
- （3）地域社会と連携し、地域貢献活動の促進や大会の活性化・魅力向上等を通じて、大学スポーツを学生・卒業生・地域住民から愛される存在とする。

ここに、大学スポーツを変革する意思のある大学及び大学スポーツ関係者が決意し、現下の困難を乗り越え、新しい時代を切り拓くための大学スポーツの大学横断的・競技横断的組織の設立を決意し、本趣意書を記す。